

参院選 自民・公明一改選過半数 しかし、改憲勢力—3分の2割れ

野党統一候補 東北6県で4勝2敗 負けたのは青森県と福島県

「自民党現職と野党統一候補による事実上の一騎打ちとなった東北地方の選挙区（いずれ野党がも改選数 1）は、自民党の2勝4敗。全国各地の一人区で自民優勢となる中、野党が健闘。2016年の前回参院選でも自民党を1勝5敗に追い込んだ共闘態勢が、今回も効果を発揮しているもようだ。

秋田は、地上配備型迎撃システム「イージス・アショア」を陸上自衛隊新屋演習場（秋田市）に配備する計画の是非が争点となった。防衛省の不手際も相次いで批判が高まり、自民地等現職の中泉松司氏には逆風。反対を明言した無所属新人の寺田静氏が競り勝った。

宮城は改選数が2から1に減った議席を巡る大接戦の末、ラジオ局のアナウンサーの立憲民主党新人の石垣のり子氏が初当選を果たした。自民党現職の愛知治郎氏は安倍晋三首相ら党幹部が連日応援に入り総力戦を展開したが、及ばなかった。

岩手は地元選出の小沢一郎衆院議員や達増拓也県知事の支援を受けた無所属新人の横沢高德氏が、旧民主党政権の初代復興相で16年に自民党入りした現職の平野達男氏を交わして、初当選した。

山形は無所属新人の芳賀道也氏が元民報アナウンサーの知名度を武器に、再選を期した自民党現職の大沼瑞穂氏を破り、初当選を果たした。

青森は自民党現職の滝沢求氏が、立憲民主党新人の小田切達氏の追い上げをかわし再選された。」（「福島民報」19年7月22日付け）

野党 誤算

「32の一人区江統一候補を擁立した野党。率民の枝の幸男代表は21日のテレビ番組で「一騎打ちの工事をつくれた。野党がまとまって戦うことができた」と誇った。ただ、現職を多数そろえた自民との直接対決は、多くの選挙区で厚い壁にぶち当たった。野党が候補一本化の作業に本格着手したのは、春の統一地方選挙後。共産党の小池晃書記局長は「準備が立ち遅れた面はあった」と悔やんだ。

16年参院選でも、野党は一人区に統一候補を立てて臨んだ。立民幹部は今回の共闘について「協賛、社民両党との協力は、これまで以上にうまくいった」と一定の手ごたえを感じている。

だが、旧民進党をルーツ立民と国民の対抗共闘に影をおとした。改選数2の静岡で公認候補をぶつけ合うなど、一体感の欠如が表面化した。無党派層を掘り起こす戦略も、投票率が低迷し当てが外れた格好だ。

時期衆院選を見据え、野党共闘の立て直しは急務。国民関係者は「野党内に危機感があまり広がっていない。それが一番の問題だ」とこぼした。

1 強の連敗 力任せ 自民党一党営選挙不発 失地回復ならず

「巨大与党を再び悪夢が襲った。「厳しい戦いだった。責任を痛感している」

22 日未明、宮城選挙区（改選数 1）で落選した自民党現職愛知治郎（50）は仙台市青葉区の事務所で、涙をこらえながら、何度も頭を下げら他。

愛知の隣でその様子を見守った選対本部長の県議会議長相沢光哉は「県選出参院議員がいなくなった。深刻だ」と肩を落とした。

改選数が 2 から 1 に減った宮城では前回 2016 年も自民党現職が敗れた。陣営は首相安倍晋三、官房長官菅義偉らが相次いで応援に入る「党営選挙」（陣営関係者）に打って出た。

全国屈指の接戦の末、議席を失った。安倍が執念を燃やす憲法改正に前向きな「改憲勢力」の議席数も憲法改正の国会発議に必要な 3 分の 2 に届かなかった。

東北全選挙区を「激戦区」とした自民。改憲勢力の維持を狙うには、前回 1 勝 5 敗に終わった東北の失地回復が不可欠だったが、結局は 2 勝 4 敗の惨敗だった。



福島選挙区立候補者（右から届け出順）森雅子氏（当選 自民党・公明党支持）、

水野さち子氏（野党統一候補）、田山雅仁氏（N 国党）（「福島民友 NET」）

【比例代表の福島県得票数】

自民党	立民	公明党	国民	共産党	維新	れいわ	社民党	N 国党
303,412	108,002	101,369	96,359	63,547	42,203	32,104	23,923	14,442